

桃太郎を基にした話 2019

キジ
サル
イヌ

客入れ

照明 暗転

音楽

照明、ゆつくり明るくなる

イヌ、板付き

サル、登場

サル イヌさくん、久しぶり。

イヌ ああ、サルさん。

お久しぶりです。

サル 本当に、久しぶりだね。

元気だった。

イヌ まあ、身体は。

サル 珍しいね。

イヌさんから、声かけてくれるなんて。

キジさんは。

イヌ キジさんにも、声かけさせてもらいました。

さつき連絡あつて、ちよつと遅れるつて。

サル まあ、キジさんつぼいね。

キジさん、普通だった。

イヌ え、普通でしたよ。

サル あ、本当。

イヌ え、何ですか。

サル いやいや。

イヌ え、何ですか。

サル いや、キジさん、最近、ちよつと良くない噂聞くからぞ。

イヌ そうなんですか。

サル ああ、知らないなら良い良い。

聞かなかつたことにして。

イス え 何ですか。
全然普通でしたよ。
何ですか、気になる。
サル いや、本当、普通ならそれで良いよ。
良かった、良かった。
イス え、何ですか。
逆にキジさんくる前に、教えてくださいよ。
何か、怖い。
サル そっか。
それもそらだよな。
確かにそらだ。
イス 何ですか。
サル うん、いや、本当かどうかわかんないんだけどね。
あんまり良い噂聞かないんだよな。
イス 聞こえてくるのは、キジさんに対する悪い噂ってことですよな。
サル まあ。
イス え、何、気になる。
全然そんなこと無かったから。
何ですか、何ですか。
サル ∴
何かね、ヤバい方面と付き合ってるらしいんだよな。
イス え、どういうことですか。
爬虫類とか、両生類ってことですか。
サル そういふことじゃないんだな。
その二つとも、悪くないし。
イス 私苦手ですけど。
サル それは、個人的な好き嫌いだから。
イス え、なんですか。

サル、ほつぺに傷の素振り (やぐち)

イス ∴らろうに剣心ですか。
サル 違っでござるよ。
おろ。
イス ∴
サル おろ。
イス ∴
サル おろ。
イス ∴
サル あ、俺には突っ込んでくれないんだ。

イス ヤクザですか。
サル じゃあ、今のくんだり、一つもいらなかったね。
俺だけが爆破してたよね。
爆死したね。

イス、顔に付いた、肉片を、もの凄く嫌そうに取る

サル それは、爆破して、飛び散った、俺の肉片ってことかな。
そりや気持ち悪いよね。
イス キジさん、ヤクザになったんですか。
サル いやいやいや、そうじゃなくて。
何か、そういう人と、お付き合いしてるみたいなのね。
あくまでも噂だけど、そういう噂が聞こえてきてるんだよね。
イス 信じられないです。
サル 俺もそうだけど。
イス キジさんが、ヴァイス。
サル 今はやりの言葉で言ったね。悪者で良いんじゃないか。

音楽

サル 何。
イス キジさんのテーマ曲だ。
サル そんなのあつたつけ。
爽やか過ぎじゃね。
イス 絶対キジさんですよ。

キジ、爽やかさの欠片もなく登場

サル 爽やかじゃねえし。
キジ 久しぶり。
サル 完全に噂通りじゃん。
キジ サル、イス、久しぶり。
イス お久しぶりです。
サル お久しぶりです。
何で俺まで敬語。
キジ 元気だったか。
イス 元気でした。
キジ サルは。
サル はい、元気でした。
何故敬語。

キジ そろか。何よりだ。
イヌ キジさんも。
キジ ありがとう。
サル キジさんも 元気そろでなによりです。
キジ おう。
サル 舎弟のようだ。
キジ で、どうした。
イヌ あ、はい。
皆さんに、急に集まってもらったのは、他にもない。
キジ あ、ちよつと待つて。
イヌ はい。
キジ サル、これでちよつと、ビール買って来て。
サル え。

キジ、財布を出し、金をサルにやる

キジ ほら。
サル え。
キジ 買って来いって。
金やるから。
サル えいや、でも、
キジ 良いつて、良いつて。
サル 良いんですかね。
キジ 当たり前だろ。
久々の再会なんだから。
サル あ、はい。
キジ ほら。

サル、キジからお金を受け取り、ビールを買いに行く

サル 完全に舎弟のようだ。
イヌ すみません、わざわざ気遣ってもらつて。
キジ 大丈夫、大丈夫。
イヌ キジさんつて、今何してるんですか。
キジ 普通だよ。
河川敷で草の芽とか食つてる。
イヌ そうなんですか。
キジ そうだよ。
カタギだよ、俺。
なんか、変なこと聞いたんだろ。

イヌ まあ。
キジ カタギ、カタギ。
カタギのキジ。
イヌ 良かったです。

サル、ビールを持って、戻ってくる

サル お待たせしました。
キジ ありがとうな。
あれ、お前、ノンアル。
サル はい。
キジ 何で、飲めば良いのに。
サル いや、俺、飲めばすぐ顔赤くなるんで。
キジ なるほどな。
まあ、いや。
よし、じゃあ、久々の再会に、
乾杯。
二人 乾杯。

それぞれ、飲む。
拍手

キジ いや、年とったな。
あの頃は、乾杯して、拍手はできなかつたもんな。
サル そうですよね。
尖ってましたね。
イヌ 何にでも吠えてたし、嘸みついてましたね。
キジ そうだな。
で、どうしたんだよ。
イヌ ああ、はいはい。
そうです、そうです。
お二方に相談なんですけど
お二方は、もう野に帰ってるじゃないですか。
キジ まあ、そうだな。
俺は、その辺の河川敷にいるわ。
サル 俺も、山の方にいるわ。
イヌ はい。
私は、あのまま、桃太郎の家にはいたじゃないですか。
サル そうだな。
イヌさんはそうだな。

イヌ そうなんです。
キジ それがどうかしたのか。
イヌ はい。
もうぼちぼち、私も野に帰ろうかなど。
サル え、そうなの。
キジ まあ、イヌも元々は野犬だったわけだしな。
イヌ そうなんですよ。
サル 何、野生が懐かしくなった。
イヌ まあ、それもあると言えはあるんですけど、
サル え、何。
良いじゃん。
たしか家まで作ってもらってたよね。
専用の。
イヌ まあ、大した家じゃないですけどね。
サル 良いじゃん。
雨、風は普通にしのげるんでしょ。
イヌ それは、大丈夫ですね。
サル 全然良いじゃん。
うちら何か、その辺やつは大変だよ。
縄張りとかもあるしさ、あ、良い場所って思っても、丁度良くいかないもの。
キジ そうだな。
俺も宅地がどんどん増えてさ、草地減ってるもの。
更に、外来種のアナグマ。
結構、畑とかに巣作っているから、こえくのなんの。
サル それ本当大変ですね。
キジ なんかさ、キツネとかタヌキとかと恐怖感、全然違うのな。
やつば外来種だよ。
サル 外来種こえくつすね。
キジ 外来種こえくよ。
サル そうやつて考えれば、イヌさん最高じゃん。
イヌ まあ。
サル それに、飯も貰えるんだろ。
イヌ そうですね。
朝、晩は。
サル 十分、十分。
うちら何か、毎回必死よ。
最近はさ、畑に捨てられてる野菜食ってるけど。
キジ 良いじゃん。
サル まあまあまあ。
でも、あんな捨てて良いんですかね。

もつたいないでしょ。
キジ お前、そんな食ってんだから、もつと肉付けるよ。
ガリガリじゃん。
ガリザルじゃん。
サル ガリザルつすか。
キジ ガリザルだよ。
サル ガリザルつすか。
キジ ゴリザルだよ。
サル ゴリザルだよ。
キジ ゴリゴリラだよ。
サル ゴリゴリラですか。
キジ ゴリラだよ。
サル サルですよ。
キジ ああ、そつか。
サル そりやそうでしょ。
いらなくだりが多すぎでしょ。
イヌ すみません。
キジ ああ、そらだ。
悪いね。
イヌ いえ。
サル そらだよ。
何で、そんな良い環境なのに、野に帰ろうとしてんの。
イヌ 実際、そんなに良い環境でもないかなど。
サル 何で、良いじゃん。
イヌ いやいやいや。
環境だけで考えたら、確かに悪くないと思うんですよ。
サル ほら。
イヌ いや、お二方はもはや知らないでしょうけど、酷いんですよ。
サル 何が。
イヌ ちよつとね、もう、ついていけないです。
サル だから、何がだよ。
イヌ ∴
キジ 桃太郎か。
イヌ ∴
サル 桃太郎。
イヌ ∴はい。
サル え、桃太郎、何かしたのか。
イヌ ∴まあ。
キジ 何となく分かるような気がするよ。
サル え、どういうことですか。

キジ お前さ、朝、晩、飯出るつて言つてたけど、どんな飯。
イヌ キヤットフード。
サル キヤットフード。
それ猫の餌じゃん。
イヌ ::
サル お前、イヌじゃん。
お前、イヌだろ。
イヌ イヌです。
キジ どういうことだ。
イヌ はい。
お三方もご存知の通り、桃太郎家、今、めつちや金あります。
キジ だらうな。
イヌ それで、高い猫、買ったんです。
サル は。
イヌ で、めつちやその猫を可愛がつてるんです。
キジ それで、猫の餌の残りを、イヌが食つてるじ。
イヌ はい。
サル ::
キジ ::
イヌ ネコの餌、めつちや高級な奴なんです。
サル ネコの餌は、お前には栄養ありすぎだろ。
イヌ はい。
栄養あり過ぎて、普通に食べたら、キジさんみたいなデブになつちやうんです。
キジ デブになつたらな、飛べなくなるぞ。
サル イヌは飛べないです。
イヌ だから、私、スタイルも気になるんで、全然食べてなくて、
サル なんだよ、それ。
キジ デブになつたら、走るのも遅くなるぞ。
サル キジさんは、節制してください。
イヌ でも、そんなことはどうでも良いんです。
サル 何、どうしたの。
イヌ おかしくないですか。
サル ::
キジ ::
イヌ おかしいですよ。
サル ::
キジ ::
イヌ ずつと感じてたんですけど、おかしいですよ。
お三方は、何で、野に帰つたんですか。
サル ::

キジ 　　：
サル 　　あれだよ、単に野生が懐かしくなったんだよ。
イヌ 　　嘘だ。
サル 　　本当だよ。
イヌ 　　嘘だ。
　　　　　　何で嘘つくんですか。
サル 　　嘘じゃねえよ。
イヌ 　　嘘ですよ。
キジ 　　ああ、嘘だ。
イヌ 　　：
サル 　　キジさん。
キジ 　　いつかはこうなるんじゃないかって思ってたよ。
　　　　　　ああ、イヌの思ってる通りだ。
　　　　　　嫌気がさしたんだよ。
サル 　　キジさん。
キジ 　　まあ、良いじゃねえか。
　　　　　　イヌは、イヌだからな。俺らと違って、どうしても忠実な存在になっちゃう。
　　　　　　俺らはそもそもそういう哺乳類じゃないからな。
サル 　　キジさん、鳥類ですけどね。
キジ 　　俺らは、嫌気がさしたんだよ。
イヌ 　　やつぱり。
キジ 　　言えよ。
イヌ 　　はい。
　　　　　　もうね、見てられないです。
　　　　　　鬼が島から、鬼が集めた財宝持って帰ったじゃないですか。
　　　　　　その財宝で、あいつら贅沢三昧ですよ。
　　　　　　ネコを買ったことを、腹立立てるんじゃないんです。
　　　　　　持って帰ってきた財宝で、贅沢三昧なのが腹立つんですよ。
　　　　　　しかも、自分たちと仲良い人だけ。
　　　　　　違うんじゃないかって。
　　　　　　使い方、違うんじゃないかって。
サル 　　：
キジ 　　：
サル 　　キジさん、俺も言ってる良いですか。
キジ 　　ああ。
サル 　　俺さ、
キジ 　　俺さ、おかしいと思ってたんだよ。
サル 　　：
キジ 　　：
サル 　　だつてさ

キジ だってよ。

サル ::

キジ 俺らの扱い、雑じゃね。
俺ら、命張ってたんだぞ。

サル ::

キジ ::

サル ::

キジ それなのに、
それなのによ、
俺らの報酬って、結局はきび団子だけだろ。

サル ::

キジ ::

サル ::

キジ まあ、でもさ、
まあ、でもよ。
それは、最初はそれで良いつて言ったから、その中で、鬼が島行ったわけじゃん。
それは最初の段階で、もっと報酬が欲しいなら、そう言えば良かったけど、言わなかった
からな。
だから、そこに関しては、納得はしてるよ。

サル でもさ、

キジ でもよ、

サル ::

キジ 何とか、鬼倒したわけじゃん。
俺らみんな協力してさ。

イヌ はい。

キジ な。

イヌ 私は、足を噛みました。

サル 俺は、背中を引つ掻いてやりました。

キジ 俺は、上空で見守ってた。

イヌ ::

サル それだけですか。

イヌ 私たち、めっちゃ接近して、ぎりぎりだったのに。

サル キジさん、飛んでただけ。

キジ 状況を、把握し、的確に指示を出す。

イヌ ええ。

サル マジツすか。

キジ だって、飛べるの俺だけじゃん。

イヌ マジツすか。

サル いやいやいや、

キジ 嘘だよ。

目突いたよ。
イヌ マジッすか。
サル ええ。
キジ 俺のくちばしで、鬼の目を突いてやったよ。
イヌ 気持ち悪い。
サル 聞いているだけで、目が痛い。
キジ プニユって。
イヌ あゝ。
サル うわうわうわ。
キジ どうよ。
イヌ さすがつす。
キジ 俺のくちばしに、プニユって感触が合つて、
鬼はギヤーつて。
サル 怖い怖い怖い。
やつぱキジさん、すごつす。
キジ まあ、良いよ。
それは、流れだから。
お前らが、噛んだり、背中搔いたりしてくれたから
サル 引つ掻いたんですけど。
キジ 鬼がそつちに気が向いてるすきに、目をプニユって。
イヌ なかなか出来ませんよ。
サル 引つ掻いたんです。
キジ だからまあ、みんなで倒したんだよ。
サル でも、あれですよ、桃太郎、
キジ その中で桃太郎はよ、おれらが一生懸命弱らしたところまで出てきて、刀でぶつくりだろ。
まあ、百恭譲つて、それはそれで良いよ。
うちらも雇われた身だし、
手柄が誰のものとか、そんな小さなこと気にしてもしやあないしな。
イヌ さすが、キジさんです。
サル ずっと、同じことを言いたいです、僕。
キジ 俺が言いたいのはず、
そつやつて、みんなでなし得たことだらう。
イヌ その通りです。
サル 僕も同じことを思つてました。
キジ 言つてやれ。
サル え。
キジ サル言つてやれ。
サル ∴
キジ ほう。
サル あいつ、汚いつす。

キジ その通り。
サル 桃太郎、最低つす。
キジ その通り。
サル 桃太郎、クズつす。
キジ おお、そうだ。
サル だって、そうでしょ。
何が、鬼が奪った財宝、持って帰って、お爺さんとお婆さんと幸せに暮らしましただよ。
何で、奪った財宝が、お前のものなんだよ。
お前も泥棒じゃん。
キジ そうだ。
サル 泥棒じゃねえよ。
強盗殺人だよ。
キジ いいぞ、サル。
サル 桃太郎、強盗殺人しただけだよ。
犯罪者だよ。
：
桃太郎、
お前はな、
正義のお面をかぶった、
単なる犯罪者だよ。
キジ ：
イヌ ：
サル 言つてやりましたよ。
キジ まあ、俺はそこまで思つてはないけどな。
サル え。
キジ 鬼退治した後、俺は今でも忘れられねえ。
鬼貯めこんだ、財宝見てよ。
あんな浮かれる。
もう俺らのこと、どうでも良くなつたもんな。
ヤバいことは俺らにやらせてよ。
おいしいとは、全部自分で持つていく。
おかしいだろ。
何が働き方改革だよ。
イヌ、お前は、一生懸命、桃太郎の僕で、桃太郎を励まして、鬼には嘸みついて、頑張つたよな。
サル、お前は、こするいから、こすい作戦立てて、どうやったら鬼を退治できるのか、考えてくれたよな。鬼の背中、掻いたよな。
サル 引つ掻きました。
キジ 俺だって、最初に鬼が島まで飛んで、偵察したり、最終的には、目をブニエつてやつてよ、頑張つたよ。

最前線で、身体張ってるのは、誰だって話だよ。

目の前の財産見た途端、もう、俺らのこと目に入ってなかったよ。

違っただろ。

喜びとかさ、達成感とかさ、諸々共有するのは、俺たちとじゃないのかよ。

イク ボーナスをくれということですよ。

キジ まあ。

イク わかります。

キジ だから俺は思ったね。

こいつらとは、無理だつて。

だから、俺は素直に、あいつらから離れて、野に帰ったつてわけよ。

サル 俺もです。

イク ずっと違和感を感じてたんです。

どうしても、性質的に、忠実で従順になってしまいがちですが、

ずっと違和感を感じてたんです。

キジ しょうがねえよ。イクなんだから。

サル そうだよ。

お前はイクだ。

イク ∴

ずっとお二方のことが気になってました。

どうしてるんだろつて。

決めました。

私、野に帰ります。

あの家出て、野に戻ります。

単なる野犬になります。

キジ 辛えぞ。

イク 覚悟はできてます。

サル 家も、エサもないんだぞ。

イク もちろんです。

もう、あいつらの施しはいりません。

キジ ケーン。

サル ウキー。

イク ∴

こんなことがあつた。

仲間が、普通に河川敷で撃たれたんだ。

俺じゃないにしろ、俺の仲間だ。

もはや、あいつらには、鬼退治に協力した、俺たちへのリスペクトなんてない。

俺は思ったよ。

∴

雉も鳴かずに撃たれまい。

サル 俺も、こんなことがあつたよ。

俺の仲間が、畑に捨てられてた野菜を食ってたら、撃たれたんだ。
捨てた野菜なら食ったって良いだろ。そこにあつたら、ただ腐るだけだ。
それなのに、あいつら、それすら俺らに与えようとしな。い。
拳銃の果てに、追い払おうとする。
俺は思ったよ。

::

サルも木から落ちる。

イヌ

::

一人とも、ちよつと、何を言ってるかわからないんですが。

キジ

強くならなきや、生きていけないぞ。

サル

できるか。

イヌ

できます。

強くなります。

夜叉のように強くなります。

私、犬夜叉になります。

キジ

良いな。

犬夜叉か。

イヌ

はい。

サル

犬夜叉。

イヌ

はい。

お二方のことを忘れたかのように、のん気に贅沢三味のあいつらが許せない。

サル

まるで、あいつらが、鬼になったようだな。

キジ

::

イヌ

::

サル

何ですか。

キジ

::

イヌ

::

サル

え、何ですか。

俺、なんか変なこと言いました。

キジ

::

サル

何ですか。

キジ

鬼に金棒。(ドラえもんが道具を出すような感じで)

サル

え。

イヌ

わかります。

サル

え、何。

イヌ

金棒が、鬼にするのかもしれないですね。

サル

わかんない。

キジ

サル、お前の言うとおりで。

もはや、あいつらが鬼だ。

サル

まだちよつと、すつと落ちてないですけど。

ですよね。
キジ 桃太郎を、探しに行くか。
イヌ そうですね。
サル え どういうこと
キジ ∴
サル ですよ。
探しに行きましょう。
イヌ なんなら、うちらが桃太郎になっても良いんじゃないですか。
サル それもありだな。
イヌ はい。
サル ∴ですよ。
キジ よし、うちらが桃太郎になるぞ。
イヌ はい。
サル ∴ですよ。
キジ サル、もう一本、ビール買ってこい。
サル はい。

サル、退場

音楽

照明、暗転

キジ よし、俺らが桃太郎になるぞ。
イヌ ついていきます。
キジ 馬鹿、お前も桃太郎になるんだよ。
イヌ そうでした。
キジ 俺も、イヌも、サルも、みんな桃太郎になるぞ。
イヌ はい。

礼